

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

第2学期スタート!

長かった夏休みも終わり、
いよいよ今日から第2学期が
スタートしました。児童生徒
数は31名になりました。第
1学期終了時は24名では
したが、2名が帰国したので在籍
数は22名に減っていました。
それが一度に9名も増えたの
で、本当に活気あふれる学校
になってきました。10月には
さらに2名の編入学が決まっ
ており、ますますにぎやか
になっていきそうです。

そんな中の始業式でしたが、
今学期もまず3つの「あ」を
意識して生活していくことを
呼びかけました。今朝登校し
てきたときの「あいさつ」は、
とても元気がよかった人と、
なかなか声が出なかった人が
いました。ずっと呼びかけて
いることですが「いつでも・
どこでも・だれにでも」自分
から進んで気持ちの良いあい

さつができるようになってほ
しいと思います。

「あせ」についてはいつも感
心させられるほど、みんなが
いろいろなことに対して真剣
に取り組んで来ました。何に
対しても一生懸命頑張ること
ができるのが、ドーハ日本人
学校の子どもの最良の場所
です。自分のことはもちろ
んですが、周りの人のため
に汗を流すことができるよ
うになれば、どんなに素晴
らしいだろうと思います。

3つ目の「あとかたづけ」
ですが、これが今まで最も課
題になるものでした。あとか
たづけというのは、やり始め
たことを最後までやり通す
ということです。そして自分
がしてきたことを「これで良
かったかな？」と振り返って
みることです。素直に自分
を見つめることができるよ
うになれ



9人の新しい友達を迎えました

ば、謙虚さを身につけること
ができます。それは同時に次
の勇氣ある行動へと自分を高
めていく基となる力を身につ
けることでもあります。今学
期もその第1歩として、靴の
整頓と席を立つときには必ず
椅子を入れることができるよ
うに働きかけていきたいと思
います。

「実り多い2学期」にできる
よう、今日からまたみんな
で頑張っていきたいと思
います。

「サム先生・野上さん」 よろしくお願ひします!

今学期から新しい職員とし
てお二人をお迎えしました。

「英会話講師：サム先生」

「事務職：野上さん」

お二人ともドーハ日本人学
校での勤務をととても楽しみに
しておられます。これからよ
ろしくお願ひいたします。



サム先生：英会話講師



野上さん：事務職員



第2学期始業式：児童生徒数が増えますますます活気に溢れてきました

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校
校長
酢谷昌義

夏休みの間に...

夏休みを終えて登校してきた子ども達の顔は、みんながニコニコととてもうれしそうでした。学校に笑顔で登校してこることができる子ども達は、それだけで素晴らしいと感じます。

各学級では、夏休みの間の出来事をお互いに発表し合いました。言葉にすることで、より思い出を深いものにしていくことができるからです。子ども達にいろいろと問いかけ自分の言葉で表現させることは、普段の生活の中でもとても意味のあることだと思います。

昨日は第2学期の初日ですが、この夏休みの私からの宿題「論語」を暗唱しに何人もの子ども達が校長室にやってきました。今日も同じように来てくれました。みんなが上手に暗唱するのには、本当に感心してしまいます。冬休みには何を課題にしようかと、今から楽しみにしているのは私だけですが、子ども達の持つ力の素晴らしさにはいつも驚かされます。



ドーハ日本人学校の夏休みはというと、スクールバスの納車が遅れたことや、天井に大きな穴があいたり、一昨日の夕方から停電(エアコンだけは大丈夫)が続いたりと何かとありました。そのため薄暗い教室でのスタートとなったり、昨日配布予定のものが停電のために印刷できなかつたりしました。しかし、今まで以上に前向きに元気で頑張っていきたいと思います。



ホールの天井に

こんなに大きな穴があきました



エアコンからの水漏れが原因だったようです

九月の詩

○小学部低学年

「いち」

谷川俊太郎

ちだいち いからつ いさ いはて よじね うめ での お おず おき いな	ぼだいち くどち とどち ききね ききゅう きみとう はは て を つ な ぐ	ぼついち くまり とまり きき みも みとね で い ち な の さ よ	まついち まり はり ママ せ か が い ね で い ち な の さ り	ぼついち くまり はり ぼく せ か が い ね で い ち な の さ り
---	--	--	--	---

○小学部中学年

「ぼく」

谷川俊太郎

ぼくはこどもじゃやない
ぼくはぼくだ
ぼくはおとなじゃやない
ぼくはぼくだ
ぼくはきみじゃない
ぼくはぼくだ
だれがきめたのかしらないが
ぼくはうまれたときからぼくだ
だからこれからも
ぼくはぼくをやっていく
ぼくはぜつたいにぼくだから
なんにでもなれる
エイリアンにだってなれる

校長室便り

(文責)
ドーハ
日本人学校
校長
酢谷昌義



にぎやかになった1・2年教室

狭くなってきた校舎

始業式に子ども達が並んだときから感じていることですが、ずいぶん校舎が狭くなったような気がします。今年度が始まったときも同じようなことを感じましたが、今回は十分に気を付けなければ事故につながる危険がある、ということが何よりも気になっています。

30人もの子ども達が、何のルールもなくホールを走り回ると、おそらくどこかで衝突事故が起きてしまうでしょう。そうならないように、休み時間の遊びのルールについて担当の先生から子ども達に説明がありました。今までも「こおりおにををして遊ぶ日」というような、遊びの種類を決めて過ごすということはあ

りました。しかし、ホールを使える日が学年によって制限されていたようなことはありません。このことは、日本の学校では当然のようなことではあります。児童生徒数が増えたことで、こうしたルールの中でも日本の学校と同じようになってきたわけです。

しばらくは窮屈に感じるかもしれませんが、ルールのある中で工夫しながら楽しく過

ごす力が身についていくのではないかと思います。

いろいろな場面で、子ども達が自分で考えなければならぬことが出てきます。これはとても大切なことです。与えられた条件の中で、どうすればより良くしていけるかを考えるわけですから、きっと子ども達の力を伸ばすことにつながると思います。

九月の詩

○小学部高学年

「おおきくなる」

谷川俊太郎

おおきくなつてゆくのは
いいことですか
おおきくなつてゆくのは
うれしいことですか
いつかはなはちり
きはかれる
そらだけがいつまでも
ひろがつている
おおきくなるのは
こころがちぢんでゆくことですか
おおきくなるのは
みちがせまくなることですか
いつかまたはなはさき
たまごはかえる
あさだけがいつまでも
まちどおしい



ホールがとても狭く見えます



○中学部

「空をかついで」

石垣りん

肩は
首の付け根から
なだらかにのびて。
肩は
地平線のように
つながつて。
人はみんな
空をかついで
きのうからきょうへと。
子どもよ
おまえのその肩に
おとなたちは
きょうからあしたを移しかえる。
この重たさを
この輝きと暗やみを
あまりにちいさいその肩に。
少しずつ
少しずつ。